

右の分三田村作内代と肝煎三右衛門方並小百姓衆立合、念を入槌打渡し申也。

慶長十四年卯月三日 谷口次左衛門長成判

嶋田九右衛門 元判

右は三田村作内の考證に記載するのみ。

○興富山本因寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、京都本能寺八代日承上人弟子眞淨院日得、元和元年に建立。微妙公之時、横山大膳之乳母菩提所にて、元和六年寺屋敷之儀横山大膳より被申上、淺野將監・石川茂平兩人奉行に而、泉野にて寺地拜領被仰付。とあり。按するに、横山大膳は元祖山城守長知の長男、二代横山大膳康玄也。乳母の菩提所として一寺創立せしもの也。

○永正山實成寺

法華宗也。由來書に云ふ。當寺開祖日授、永正十四年於加州石川郡野々市村建立。利家卿之御代、江守祐庵・生駒權兵衛菩提所に付、屋敷拜領之訴訟申上候處、拜領地に被仰付。然處御當地金澤へ引越度旨訴訟仕、於小立野屋敷拜領

仕。微妙公御代屋敷替被仰付、於河原町拜領仕處、御用地に被召上、於泉野替地被下。と貞享二年に書上げたり。文化三年の由來書に、泰雲公御母堂實成院殿より、國家安泰之御祈禱被仰付。依之寶曆十一年八月三日實成院殿卒去、當寺へ御遺骸被爲移御葬禮執行、御墓所野田山に被築。御靈屋は當寺に造營被仰付、實成院殿所持之品々被納。又泰雲公より、弓籠手三通り・水干三通り、並泰雲公之御詠歌掛軸一幅、實成院殿御靈屋へ被納。且御靈供米十石、毎歲於堂形被渡之、祠堂銀十五貫目御寄附、毎歲寺社所より利銀請取。とあり。泰雲公は舊藩十世正四位下權中將重敏卿なり。實成院殿は生母にて、名は類瀬、辻木曾右衛門道直の女なり。

○大蓮山妙法寺

法華宗也。俗に太鼓妙法寺と稱す。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開祖顯成院日榮。天正元年篠原出羽守内室創立有之。依而位牌・墳墓・肖像等有之。右内室は高德公之御姪子之由。創立之寺地は枯木町に而、篠原氏内室より被申上拜領仕。其後度々轉地、元和元年於泉野拜領被仰付。とあり。

其の後の由來書には、永祿年中に佐脇藤八郎發起にて、尾張國荒子に妙法寺建立。後越前國高木村へ移轉し、同國福井本妙寺三代日榮妙法寺之任職与成。天正元年金澤枯木町へ轉地。枯木町は今尾張町也。同十八年四月二代日修泉野へ再轉、慶長十八年改而千三百九十二步拜領地被仰付。と記載す。右は貞享二年の由來書と甚だ齟齬すれば、證とし難し。按するに、佐脇藤八郎は、前田縫殿助利春君の五男にて、利家卿の御舍弟良之君なり。織田信長公の家人佐脇藤右衛門の嗣子と成り、佐脇藤八郎と稱し、元龜三年十二月廿二日味方、原合戰に疵を蒙り、陣營に歸りて歿すとあり。又天正元年に金澤枯木町へ轉地、同十八年に泉野へ再轉とあるも過聞なるべし。利家卿金澤入城は天正十一年なれば、金澤へ移轉は十一年以後なる事いちじるし。泉野へ寺院共をば移されしは、元和元年以後也。慶長十八年に改めて拜領被仰付とあるも請けがたし。

○太鼓妙法寺傳話

妙法寺は京都本國寺の末也。また泉野櫻木の妙法寺は、京都本正寺の末にて、同宗同寺號なるにより、野田寺町の妙

法寺を俗に太鼓妙法寺と呼び、櫻木の妙法寺をば會津妙法寺と呼べり。或は云ふ。太鼓妙法寺と呼べるものは、此の寺もと石川郡高尾山にありしゆゑに、高尾妙法寺と呼べるを、後人呼び誤つて太鼓妙法寺と呼べりと。龜尾記には、此寺石川郡高尾山にありし頃は山寺なるゆゑ、夜盜しばく伺へり。故に寄せ太鼓を堂に釣り、是を打ちて人を集めたり。依て太鼓妙法寺と呼べりと。其實は高尾にありしゆゑに、高尾妙法寺といふべきを呼び誤りたるなるべし。といへり。但し此の寺そのかみ高尾山に在りし事、寺記等にも所見なく、寺の傳説にもその事傳聞なしといへり。一説に云ふ。當寺の墓所は、昔より今に至り茅葺にて、破風の下に巴の紋を金にて付けたり。巴は太鼓の紋なる故に、俗に太鼓妙法寺と呼べるなるべしと。此の説實を得たるならんか。寺の傳説に云ふ。當寺昔泉野にて寺地を賜はりし頃は、いまだ外の寺院等もなく、荒地の曠野なりし故に、其の頃猪など出で、害をなしけるにより、其の段首上せし處、太鼓を打廻り追拂ひ候へとの事にて、太鼓を渡され、常に本堂に釣り置きけり。故に世人太鼓妙法寺と呼べり。